

令和4年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	日本語教室の運営		
事業主体	実施団体	市（関係課）	
	日本語教室委員会	教育委員会生涯学習課	

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付確定額）
	250,000 円	151,418 円	122,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

新型コロナウイルスによる感染は依然として収束していませんが、国の施策（規制緩和）による新しい生活スタイルの実施や外国人の入国制限も緩和されてコロナ禍前の状況に戻りつつあります。然しながら、グローバルカフェは協力していただいているボランティア関係者の感染等により残念ながら実施する事が出来ませんでした。従って、従来から本市の多文化共生推進プランの一環として、国際交流協会が公民館事業として実施している初級 A クラス及び A/B クラスを協働事業の支援 S クラス及び支援 M クラスと連携するカリキュラムの構成で年間を通じて実施しました。一方、海外からの入国制限があったにも関わらず、他地域から本市への転入による市内在住の外国人は年々増加しており、在住外国人の総数は、令和3年（2021年）6月1日（現在）の 668 名から令和4年（2022年）6月1日（現在）715 名となっています。感染防止のための人と人の交流制限や、地域住民との交流・意思の疎通は言葉や文化の違いなども含めてコミュニケーションを取ることが極めて難しい状況でしたが、今後は、コロナ禍と共に新しい生活も始まっていますので在住外国人ともあらゆる機会を通じて積極的に意思の疎通を図って参りたいと思っています。

日本語教室の実施場所は大網白里市中央公民館で在住外国人に対して、第3土曜日（10:00～11:30）に日本語支援 S クラスを、第4土曜日（10:00～11:30）に日本語支援 M クラスを実施しました。日本語支援 S クラスは、日本語教師により日常生活で使用する日本語による会話や読み書きについて教室スタイルにより指導し、日本語支援 M クラスは、教師経験者等のボランティア講師によりマン・ツー・マン方式による指導方法で日常生活に密着した日本語の使い方等について指導しました。

令和4年度における日本語教室 S クラス及び M クラスは、感染防止対策を徹底して当初の年間計画のカリキュラムに従って通年実施する事が出来ました。

また、グローバルカフェは実施できませんでしたが、学習者、ボランティアのカリキュラムの一環として提案していた防災訓練の実地訓練に参加できた事や、時代背景に即応した日本語教育の在り方について学習者、ボランティアが大学の専門家を講師に共に勉強する事が出来ました。

以下についてはその概要報告です。

○令和4年10月23日（日）に実施された九都県市合同防災訓練に参加して在住外国人のためのやさしい日本語による避難（逃げてください）の実地訓練、目で見ると

トグラムサインによる避難の現地訓練、また、他の訓練参加団体の現地訓練にも参加する事により、喫緊の課題である在住外国人と地域住民の自助・共助による「やさしい日本語」を駆使した防災訓練となりました。

- また、令和5年3月19日（日）に開催された「在住外国人のための日本語教育」と題する講演会兼セミナーでは城西国際大学から日本語関係教授を招聘して、在住外国人（含む学習者）、日本語教師、ボランティアが参加しましたが、国際交流基金が提唱するJF日本語教育スタンダードに準拠したCan-Do（できること）を中心に地域に密着した身近なことからできることの幅を広げていくことを強調されました。固定観念の日本語「を」教えるのではなく日本語「で」コミュニケーションできる力を育成することを強く示唆されて大変勉強となり、今後の日本語教育手法に積極的に取り入れる事としました。

【 ②企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

○事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。

○協働で行うことでどのような効果が得られたか。

○住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。

○事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

○コロナ禍で当初計画のグローバルカフェが実施出来ませんでした。新型コロナ感染対策を徹底して、本市の多文化共生推進プランの一環として実施している公民館事業の初級Aクラス、A/Bクラスを協働事業の支援Sクラス及び支援Mクラスと連携するカリキュラムの構成で実施しました。互いに顔を見て会話ができる事に日本語の習得だけでなく、最も大事な意思の疎通ができた事に学習者も教師も支援者も喜びを感じており、これこそ多文化共生と包摂の精神だと感じています。

○本市の多文化共生推進施策プランの一環として実施している日本語教室は、在住外国人が日本で生活するために必要な日本語の読み書きや会話を教える事に対する運営手法としての市との協働事業は公益性があり、在住外国人も安心して学ぶことが出来ると評価を得ています。

○ボランティア講師は外国人を含めた住民の協力で実施しているが、コロナ禍にも拘らず年間を通じて積極的に参加していただいております、大変評価を得ています。

○城西国際大学の日本語関連学科とは日本語教室の在り方等の研究会で連携しているが、今年度は日本語教師やボランティアを対象とした講演会やセミナーを開催し、今後の日本語教室の運営に関して大変勉強になっています。また、茂原市国際交流協会の日本語教室責任者は外房地区の日本語教室のコーディネーターをしている事から連携を密にしながら双方の日本語教室の発展のために努めており、外房地域全体の在住外国人のための日本語教育に積極的に関与する事でその効果が出ています。

○コロナ禍における制限された活動となったが、城西国際大学との連携や茂原市国際交流協会日本語教室との連携を強化した新しい研修や交流スタイルを取り入れた事により、当教室が外房地域の在住外国人のための核となる日本語教室としての役割も含めて新たな波及効果もあることから、今後の活動に活かせるものと感じています。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由)	<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由) 行政では、外国人に日本語を教えるスキルがなく、日本語教室委員会の持つノウハウを生かした日本語指導に加えて、参加したボランティアとの対話によって日本語に接する機会が増え、参加者への効果は高くなっている。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
○日本語教室の運営。 ①学習者、日本語教師、ボランティアの募集 ②カリキュラムの作成。 ③指導内容の検討（教師、ボランティア） ④指導教科の検討（教師、ボランティア） ⑤学習者の個別要望の聴取と指導内容の検討。 ⑥学習者のアンケート調査。 ⑥日本語教室の運営に係る事務処理。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室にかかる案内ポスター及びチラシを作成し、公共施設へ掲示・配架することで施設利用者等へ広く周知を図った。 ・また、市HPへ掲載し、多くの市民に日本語教室の存在をPRした。 日本語支援S・Mクラスを実施するための場所（中央公民館）の施設使用申請等を行った。

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由)	<input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) 活動場所を確保することで、日本語教室を実施する際に計画的な授業が展開することができた。 またチラシの配架やHPへの掲載を行うことで、興味を持った市民からの問い合わせが増え、参加者が増加するための起因となった。

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
<p>令和4年4月～令和5年3月(8月は休室)</p> <p>○日本語教室 (1) 開講日 毎月第3土曜日 ・日本語支援Sクラス：10:00～11:30 毎月第4土曜日 ・日本語支援Mクラス：10:00～11:30 (2) カリキュラム ①日本語支援Sクラスは、「たのしい日本語教室」A・Bクラスで学んだ会話・読み書きの総復習をします。 また、毎回テーマを掲げており、4月のテーマは、コロナ禍の生活について勉強する予定です。 ・5月以降のテーマは、ワクチン接種について、交通、病院、買い物、地震、津波等について学習する予定です。 ②日本語支援Mクラスは、マン・ツー・マン方式による個別指導をします。また、日本語支援Sクラスで学んだ復習をします。 ・日本語会話学習の教材で勉強すると同時に日本語及び日本社会を学習するための機会の継続的な提供を行うため能力に応じた個別指導を実施します。 ・5月以降も同様のカリキュラムの予定です。</p> <p>○グローバルカフェ (1) 開設日 毎月、第4土曜日の13:30～16:00に日本語教室Sクラス及びMクラスの学習を補完する事業として運営します。 運営の目的は、「外国人住民への日本語学習支援の場」とするとともに、地域住民や子ども達にも参加していただき、情報交換や交流の場を提供し、「行政情報・生活習慣等に関する講座」として出前講座や「日本語教室学習者のやさしい日本語によるスピーチ」などを実施します。</p>	<p>令和4年4月～令和5年3月(8月は休室)</p> <p>○日本語教室 (1) 開講日 毎月第3土曜日 ・日本語支援Sクラス：10:00～11:30 毎月第4土曜日 日本語支援Mクラス：10:00～11:30 (2) カリキュラム ①日本語支援Sクラスは、「日本語初級 Aクラス及びA/Bクラス」で学んだ会話・読み書き及び日本語の基本的文法の総復習を行なった。 また、毎回テーマを掲げており、4月のテーマは、新型コロナウイルス禍の生活スタイルについて意見交換を行なった。 ・5月以降のテーマは、防災、買い物、緊急時の電話のかけ方について学習しました。 ○②日本語支援Mクラスは、マン・ツー・マン方式による個別指導を行なった。また、日本語支援Sクラスで学んだ復習を行ないました。 ・日本語会話学習の教材で勉強すると同時に日本語及び日本社会を学習するための機会の継続的な提供を行うため能力に応じた個別指導を実施しました。</p> <p>○グローバルカフェ 新型コロナウイルスの感染拡大防止が依然として衰えておらず、また、ボランティアの殆どが高齢者であることから、人と人の接触を伴う交流が基本となるグローバルカフェは全面休止としました。</p> <p>○防災実地訓練への参加 九都県市合同防災訓練に参加して「やさしい日本語による避難（逃げてください）」の実地訓練、目で見ると読むピクトグラムサインによる避難の実地訓練を実施しました。また、他の訓練参加団体の実地訓練にも参加して喫緊の課題である在住外国人と地域住民の自助・共助による防災</p>

<p>○グローバルカフェ 新型コロナウイルスが収束し、国や県市による人と人との接触が緩和されれば開催する事とします。</p>	<p>訓練に参加し、「やさしい日本語」を駆使した大変意義のある防災訓練となりました。</p> <p>○在住外国人のための日本語教育セミナー及び講演会の開催 大学の日本語関係教授を招聘して、在住外国人（含む学習者）、日本語教師、ボランティアが参加した講演会兼セミナーを開催し、国際交流基金が提唱するJF日本語教育スタンダードに準拠した Can-Do（できること）を中心に地域に密着した身近なことからできることの幅を広げていくことの重要性を強調されました。固定観念の日本語「を」教えるのではなく日本語「で」コミュニケーションできる力を育成すること主眼としてすることを強く示唆されて大変勉強となり、今後の日本語教育手法に積極的に取り入れる事としました。</p>
--	--

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<p><input type="checkbox"/> 適正であった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね適正であった <input type="checkbox"/> あまり適正でなかった (理由) グローバルカフェは、感染防止の為に中止したが、在住外国人にとって喫緊の課題である防災訓練に参加してやさしい日本語で実地避難訓練を実施した事や在住外国人のための新しい日本語教育の在り方について外国人学習者に対して日本語「を」教えるのではなく、日本語「で」コミュニケーションできる能力を育成する事を学び今後の日本語教育手法に取り入れる事となった事によります。</p>

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことので得られた効果も記入してください。

- 人については、協働事業により認知度が高まり、ボランティアの資質等が向上して強化された。
- ものについては、教科書等の充実が図られて学習者に対する効率的な指導が出来た。
- コロナ禍による活動制限がある中で感染対策の徹底による対面方式で教えるという事と意思の疎通を図る事が出来た事に学習者・支援者ともに大変な喜びを感じた事を皆さんが実感した。また、防災実地訓練への参加、城西国際大学日本語関係学科及び茂原市国際交流協会日本語教室との連携やオンラインによる新しい学習システムの導入により、多様な指導方法の導入が出来ました。

今後については、コロナ収束後の持続可能な多文化共生推進施策の一環としての日本語教室を継続していきたいと思っています。

具体的には、コロナ禍で感染対策をしながら対面授業を実施したが、学習者・支援者が顔を見て意思の疎通を図りながら実施していく事が如何に大切かという事を実践して学んだこと、また学習者からも強い継続希望があることから、オンライン方式も含めて更に発展させて着実に実践していきたいと思っています。そして、本市には技能労働者のビザで在住している外国人の割合が大きい事から銀行労働者が安心して生活できるための日本語教育等の実施、また、本市在住外国人子女の放課後日本語教育等の実施にも積極的に対応して参りたいと思っています。

また、その結果について、自己評価 (☑) をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体
<input type="checkbox"/> 強化、活性化した <input checked="" type="checkbox"/> 概ね強化、活性化した <input type="checkbox"/> あまり強化、活性化しなかった (理由)

【 ⑤必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

【団体】

本市の多文化共生推進プランの一環として実施していますが、第一次多文化共生推進プランを継続した第二次多文化共生推進プランも策定されて実施される事となっています。これは、総務省の多文化共生推進プラン、改正多文化共生推進プラン、また、千葉県多文化共生推進プランの指針には、団体（国際関係）と市が積極的に協働して在住外国人のための多言語化や日本語教室の開催、地域住民との交流等の施策目標が掲げられており、本市の協働事業は、他の分野との連携も必要な事から多文化共生推進施策プランとも合致しており、本市の行政全体のサービスにも貢献出来る大変良い事業だと思っています。

【市】

日本語教室の開催は、本来、行政が率先して実施・運営すべき事業であるが、市民団体である日本語教室委員会と協働により実施していくことで参加者の寄り添った教室となり、効果のある事業として進めることができた。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部事業を中止したものの、身近で生活に役立つ日本語の習得に向けた日本語支援を計画・実行できたのは、日頃から在住外国人と接する機会が多い団体だからこその強みであり、協働事業の良さとして生かされている。

大網白里市多文化共生推進プランは、令和3年度に見直しを図り、コミュニケーション支援の一環として日本語の学習支援を重要視している。日本語の学習機会の提供、日本語を効果的に学ぶ体制づくりは、今後も推進させていく必要があり、協働事業として事業を進めていくことで、市内の在住外国人が参加しやすい形態になり、「誰もが住みやすいまちづくり」に近づくことができる。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由)	<input type="checkbox"/> 効果があった <input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果があった <input type="checkbox"/> あまり効果はなかった。 (理由)